

平成27年度施策評価シート

基本情報	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
	政策名等	42	市内外の交通インフラ整備により、人・モノ・情報の流れが活発なまちづくり	190500	建設部建設1課	0595-43-2323
	施策	4201	市内幹線道路・生活道路の整備	評価責任者・役職名	建設部 部長 北山 太加視	
	再生の視点(何を、どうする)	<ul style="list-style-type: none"> 市民生活に密着した道路整備を進めます。 本市の広域的道路網整備及び地域振興の観点からの効果的予算投入を図ります。 				
施策の方向	幹線道路や都市計画道路など市内を結ぶ道路の整備・改良を進め、地域の交流や産業の活性化を図ります。地域住民の生活道路であるその他の市道については、公共施設や救急病院へのアクセス道路の整備促進、狭い箇所や災害危険箇所の改良などを進めるとともに、適切な維持管理に努めます。					

指標	成果指標名	指標の説明	現状値(平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	市道改良率(%)	全体延長に対する改良済延長比率	26.55	目標 26.60 実績 26.60	26.66	26.71

改善・取組方向	平成26年度		平成27年度	
	前年度の取組内容と残された課題	(平成25年度の取組内容と残された課題) ・県営都市計画街路事業及び急傾斜地崩壊対策事業の負担金の支払いを行った。 ・社会資本整備総合交付金による主要幹線道路整備並びに生活圏の道路整備として市単道路改良事業等を導入して道路整備を図りました。 (課題) ・補助申請に対する国の補助金交付決定率が70%を下回るなど、低下傾向はさらに強まる見込みで、優先着工・重点配分を検討する必要があります。	(平成26年度の取組内容と残された課題) ・重点化事業(西明寺緑ヶ丘線他2路線道路改良事業)については、計画通り整備を進める事ができました。 ・市単道路改良事業については、優先度を検討して整備に努めました。 今後も工事コスト縮減に努め道路整備を図る必要があります。	道路整備の費用対効果、早期の供用開始など事業効果の出現に取り組み、引き続き工事コストの縮減を図り整備に取り組みます。 ・西明寺緑ヶ丘線では、新消防庁舎進入道路として完成が急がれており、平成27年度内で市道荒木木興線まで暫定開通を図る必要があります。 ・ゆめが丘摺見線では、平成27年度供用開始を目指して引き続き道路整備に努めます。 ・伊勢路とがの奥鹿野線では、集落と国道165号を結ぶ生活道路整備として引き続き工事を行います。
改善ポイントと具体的な取組				

(続紙)

施策 4201

市内幹線道路・生活道路の整備

No	26 重点	27 重点	事務事業名	事業概要	コスト の方向	H26 決算見 込	H27 予算
01			県営土木事業負担金(01-08-01-01-339-51)	三重県が実施する都市計画街路事業及び急傾斜地崩壊対策事業の推進を図るとともに負担金を支払う	↑	3,458	12,500
02			臨時地方道整備事業(01-08-02-03-343-51)	集落内道路の安心・安全を図るため、道路改良、舗装新設、舗装改修、路側整備工事を実施する。	→	22,731	23,284
03			佐那具千歳線道路改良事業(01-08-02-03-344-56)	国道25号線(佐那具町地内)から市道千歳千戸線を経て国道163号(千戸地内)を結ぶ広域幹線道路で、名阪国道側道から国道25号間は幅員が2.5mと狭小なため、二車線道路に整備する。(全長950m、W=7.0m)	↓	11,246	6,150
04	2	2	ゆめが丘摺見線道路改良事業(01-08-02-03-344-69)	市道四十九ゆめが丘線を起点とし、市道喰代比自岐下川原線(広域農道)につながり、ゆめが丘住宅地と摺見、青山地区を結ぶ幹線道路を新設整備する。(全長1,400m・W=12.0m) 道路工事70m、舗装工事1,350m	↓	116,323	102,500
05	3	3	伊勢路とがの奥鹿野線道路改良事業(01-08-02-03-344-76)	本路線は、奥鹿野集落と国道165号を結ぶ重要な生活道路で、安全且つ円滑な交通を図るため、未改良区間L=1,830mについて路肩及び路面排水施設を整備する。併せて適所に待避所を設置する。道路工事600m	↑	13,133	44,075
06	1	1	西明寺緑ヶ丘線道路改良事業(01-08-02-03-344-77)	国道163号線と市道荒木奥線(緑ヶ丘地内)を接続する重要な幹線道路であり、旧上野東部地域の南北を連絡する幹線道路として機能の整備を図る。(全長1,100m・W=12.0m) 道路工事700m、舗装工事7,000㎡	↑	57,051	380,200
07			依那古友生線他1線道路改良事業(01-08-02-03-344-78)	農免道路からゆめが丘住宅地南西端へ通じる舗装幅員3mの見通しの悪い狭小な道路であり、事故が多発している。対面通行が出来るような整備を行い安全安心に通行出来るよう整備する。(全長780m・W=7.0m) 道路工事200m	↑	5,668	66,600
08			四十九下友生線道路改良事業(01-08-02-03-344-79)	青山地区及び上野南部地区から県伊賀庁舎への進入道路であるが幅員が狭小であり対向がでず歩行者等の安全が危惧されることから改善を図る。(L=130m、W=8.0m)	皆減	19,800	0
09			岡田大沢線他1線道路改良事業(01-08-02-03-344-80)	本路線は、国道165号と柏尾集落、そして幹線市道とを結ぶ生活道路で、安全且つ円滑な車両通行を図るため、未改良区間L=300mについて1.5車線道路として整備する。	↑	5,822	10,250
10			道路ストック総点検事業(01-08-02-03-344-83)	二車線道路を対象に道路ストックの総点検により道路施設の実態を把握し、今後の計画的な修繕の実施に向けた基礎資料を作成するとともに、施設の異常や損傷を早期に発見し第三者被害を防止する観点から応急的措置を行う。	皆減	79,430	0
11			下柘植植田線道路改良事業(01-08-02-03-908-55)	本路線は、新堂集落から県道伊賀甲南線へ抜ける生活道路で、幅員狭小区間L=75mについて道路拡幅する。	皆減	1,930	0
12			愛田山畑1号線道路改良事業(01-08-02-03-908-56)	本路線は、山畑集落内の生活道路で、幅員狭小及び屈曲区間L=70mについて、道路拡幅する。道路工事20m	新規	0	2,500
13			綾之森線道路改良事業(01-08-02-03-908-62)	本路線は、外山集落内の生活道路で、幅員狭小区間 L=120mについて、道路拡幅する。	皆減	2,874	0
14			きじが台下六谷線道路改良事業(01-08-02-03-908-71)	団地から外部への道路が狭小で対向が困難なため、整備中の県道上野名張線バイパスへの接続道路を建設し、緊急車両の進入を容易にする。道路概略設計業務L=170m	新規	0	1,000
15			西高倉岩倉線道路改良事業(01-08-02-03-908-64)	本路線は、岩倉集落内の生活道路で、幅員狭小区間 L=40mについて、道路拡幅する。	皆減	5,838	0
16			滝中切谷出線道路改良事業(01-08-02-03-908-65)	本路線は、滝集落内の生活道路で、幅員狭小区間L=21mについて、道路拡幅する。	皆減	3,882	0
17			川上種生線他1線道路改良事業(01-08-03-04-358-56)	本路線は、付替県道青山美杉線と青山ハーモニーフォレストを結ぶ連絡道路で、地域活性化と交通利便の向上を図るため、延長923mについて道路整備を行う。道路工事50m	↑	6,701	46,882
18			西明寺一之宮東條線道路改良事業(01-08-02-03-908-70)	三重県管理の国道25号東條交差点の本線右折車線付加改良に伴う市道へ右折車線を付加する改良工事。 H27は測量設計業務(L=120m、W=12m)	新規	0	3,000
19			小田西明寺線道路改良事業(01-08-02-03-908-52)	本路線は、昭和61年から取組み、平成14年度に一部道路整備が実施されたが、用地・補償が完了出来なかったため、未整備が残った。今回、用地・補償可能となった為、道路整備を進める。(全長180m、W=12m) H26は道路工事L=88m	皆減	15,032	0
構成事務事業 合計						370,919	698,941

構成事務事業の重点化

平成27年度施策評価シート

基本情報	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
	政策名等	42	市内外の交通インフラ整備により、人・モノ・情報の流れが活発なまちづくり	190500	建設部建設1課	0595-43-2323
	施策	4202	道路環境の維持・向上	評価責任者・役職名	建設部 部長 北山 太加視	
	再生の視点(何を、どうする)	<ul style="list-style-type: none"> 市民の日常生活に影響が大きい幹線道路の舗装修繕事業を、今後重点的に取り組みます。 橋梁等施設については、点検・修繕の保全対策を強化することにより長寿命化を図り、ライフサイクルコストの低減をめざします。 工事の計画・設計等の見直し、工事発注の効率化、工事構成要素のコスト低減等の施策を講じ、工事コストの着実な低減を図ります。 				
施策の方向	管理する道路舗装の実態を把握し、異常または損傷を早期に発見するとともに、計画的かつ効率的な舗装修繕を実施し、道路利用者の安全かつ円滑な交通を確保します。 今後老朽化する道路橋の急速な増大に対応するため、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、道路ネットワークの安全性・信頼性の確保に努めます。					

指標	成果指標名	指標の説明	現状値(平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	橋梁修繕対策実施率(橋長15m以上の橋梁)(%)	15m以上の橋梁全体数に対する修繕合計比率	0.4	目標 0.7 実績 0.0	1.1	6.0

改善・取組方向	平成26年度		平成27年度	
	前年度の取組内容と残された課題	(平成25年度の取組内容と残された課題) ・市道を安全に通行できるよう、定期的な道路および関連施設等の巡視に努め、舗装等の維持工事の発注、街路樹の剪定や除草業務委託等の発注を行いました。冬季の融雪剤の購入と路肩据置きと業務委託による融雪剤の散布を行いました。 ・砂利道にあっては、自治会の協力を得て砕石等の補修資材を支給して管理に努めました。また、市街地では町内会の側溝清掃作業で出された土砂を土のう袋詰めにした後、回収しました。 ・橋梁従前設計業務委託3橋 ・道路ストック総点検事業(路面、付属施設、法面ほか) (課題) 生活道路については、引き続き自治会の協力を得て管理に努める必要があります。また、傷みが進行している舗装路面や橋梁について、計画的な修繕計画の策定とその対策を図る必要があります。	(平成26年度の取組内容と残された課題) ・通常管理として職員による道路巡視により、随時小修繕を行いながら道路の保全に努めました。 ・道路沿道自治会の協力を得て、砕石等材料支給を行って砂利道の補修に努めました。 ・路肩の草刈等は、業者委託や沿道自治会へ草刈燃料費の支給するなどにより、除草に努めました。 ・冬季の事故防止のため、路肩へ融雪剤を据置き、特に厳しい地域へは自治会へ事前配布して車両の通行確保に努めました。 ・橋梁の修繕については、設計業務まで進めました。 今後も生活圏の道路は、利用者、沿道自治会の協力を得て管理に取り組む必要があります。	
改善ポイントと具体的な取組	道路管理は道路巡視ともつぱら道路を利用する方や沿道自治会の協力も得て必要な資材や材料の支給を行って引き続き管理に努めます。また、道路施設の計画的な修繕を進めるため、道路ストック総点検事業と橋梁長寿命化修繕計画に基づき計画的に修繕工事を行います。	・引き続き、道路管理は職員による道路巡視と道路を利用者、沿道自治会の協力も得て、必要な資材や材料の支給を行って管理に努めます。また、道路施設の計画的な修繕を進めるため、橋梁点検業務を行います。		

平成27年度施策評価シート

基本情報	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
	政策名等	42	市内外の交通インフラ整備により、人・モノ・情報の流れが活発なまちづくり	040100	企画振興部総合政策課	0595-22-9663
	施策	4203	交通政策の計画的な推進	評価責任者・役職名	企画振興部 部長 藤岡 淳次	
	再生の視点(何を、どうする)	<ul style="list-style-type: none"> 本市の交通政策を総合的かつ体系的にまとめ、課題解決にあたるため、新たな伊賀市交通計画を策定し、施策の遂行に努めます。 バスや鉄道などの公共交通機関が、市民の移動手段として確保できるよう、公共交通を取り巻く環境の変化に対応した、交通サービスの提供に取り組みます。 				
施策の方向	「伊賀市交通計画」の策定、計画に位置づけた施策の進行管理に努め、利用者である市民や交通事業者などとともに、市の交通政策を適正、総合的かつ体系的に進めます。					

指標	成果指標名	指標の説明	現状値(平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度				
	交通計画施策の着手率(%)	計画に位置づけた施策の着手率	96.2	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>96.2</td> </tr> </table>	目標	98.0	実績	96.2	98.0	98.0
目標	98.0									
実績	96.2									

改善・取組方向	平成26年度		平成27年度	
	前年度の取組内容と残された課題	<p>(平成25年度の取組内容と残された課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊賀市交通計画に掲げるアクションプログラムに基づく施策の推進を図りました。 地域公共交通を取り巻く環境の変化や地域ごとの課題に対応した施策を進めていく必要があります。 	<p>(平成26年度の取組内容と残された課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズに合った持続可能な公共交通ネットワークを構築していくため、平成26年度中に伊賀市地域公共交通網形成計画の策定を予定していましたが、伊賀鉄道伊賀線存続の方針確定が平成27年3月末となったため、その方針を盛り込んだ計画にする必要から、平成27年6月まで延長しました。 公共交通を取り巻く厳しい環境に対応するため、バス等の乗合旅客運送の形態及び運賃、料金等を協議する道路運送法に基づく地域公共交通会議を開催しました。 	
改善ポイントと具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> バスや鉄道などの公共交通機関が市民の移動手段として確保できるよう、まちづくりと連携した面的な公共交通ネットワークを再構築し、人口減少社会における地域社会の活力の維持向上を目指すことを目的とした、新たな交通計画の策定に取り組めます。 新たな交通計画の策定では、利用者のニーズや意見をできる限り反映するため、意見交換会を開催します。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊賀市地域公共交通網形成計画を策定するため、早急に中間案に対するパブリックコメントを実施し、意見集約等を行い平成27年6月末までに策定します。 地域公共交通網形成計画に基づき、行政や事業者、地域などの公共交通に係る各主体と連携した、地域公共交通再編実施計画の策定を行います。 		

平成27年度施策評価シート

基本情報	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
	政策名等	42 市内外の交通インフラ整備により、人・モノ・情報の流れが活発なまちづくり		040100	企画振興部総合政策課	0595-22-9663
	施策	4204 安定的で持続可能な交通サービスの提供	評価責任者・役職名	企画振興部 部長 藤岡 淳次		
	再生の視点(何を、どうする)	<p>・本市が自主運行する廃止代替バス、行政サービス巡回車、コミュニティバスは、利用実態や利用者のニーズを把握したうえで、安定的で効率的かつ適正な運行を図ります。</p> <p>・バス交通の維持やサービス提供の妥当性に対する市民の積極的な関与を促すために適切な事業評価を行います。</p> <p>・バス交通の維持や環境への負荷が少ない社会を構築するため、自家用車に過度に依存することがないよう市民一人ひとりが自発的に節度ある交通行動(モビリティマネジメント)ができるまちの実現をめざします。</p>				
施策の方向	<p>安定的で持続可能な交通サービスの提供という視点に立って、市や地域をはじめとするそれぞれの主体が役割を果たし、移動手段の不足が社会参加への妨げとならないよう、市民の生活交通を確保します。</p>					

指標	成果指標名	指標の説明	現状値 (平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	上野コミュニティバス年間輸送人員(人)	上野コミュニティバス全系統の年間輸送人員数	26,214	目標 26,000 実績 26,300	26,000	26,000

改善・取組方向	平成26年度	平成27年度
	<p>前年度の取組内容と残された課題</p> <p>(平成25年度の取組内容と残された課題) 伊賀市交通計画に掲げるアクションプログラムに基づき、利便性の向上や利用者の増加に向けた取り組みとして運行ルートの見直しなどの施策を実施しました。 今後は、路線を維持するための利用者増加に向けた取り組みに加え、利用実態や利用者のニーズを踏まえた安定的で効果的な運行に向けた取り組みが必要です。</p>	<p>(平成26年度の取組内容と残された課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少や運行経費の増加などにより、路線を維持することが厳しい状況であることから、路線を維持するための利用者の増加に向けた取り組みに加え、利用実態や利用者のニーズを踏まえた安定的で効果的な運行に向けた取り組みを行いました。 (・いがまち、阿山行政サービス巡回車の運行形態変更) (・上野コミュニティバス、大山田、島ヶ原行政サービス巡回車の運行経路変更) (・廃止代替バス路線の運賃改定及び諏訪線の運行回数変更) (・青山行政バスの運賃改定と運行経路の変更) <p>・今後も利用者のニーズを踏まえた運行改善等に取り組み、より少ないコストで効果的な輸送サービスを行うことで路線の維持存続を図るとともに、バス交通の維持やサービス提供の妥当性に対する市民の積極的な関与を促すため、路線ごとの事業評価を行うことが必要です。</p>
改善ポイントと具体的な取組	<p>利用者の減少や運行経費の増加などにより、路線を維持することが厳しい状況であることを踏まえ、利用実態や利用者のニーズを把握した上で安定的で効果的な運行に向け取り組むとともに、行政や事業者、地域、市民などそれぞれの主体が役割を果たし、市民の生活交通の確保に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀市地域公共交通網形成計画に基づいた、地域公共交通再編実施計画の策定を行います。 ・再編実施計画の策定にあたっては、既存のバスや鉄道等との連携に加え、地域が主体となって取り組む手段を検討するなど、面的な公共交通ネットワーク形成を図ります。 ・公共交通ネットワークの評価指標や基準を、定量的視点や定性的視点を踏まえ検討します。

(続紙)

施策 4204

安定的で持続可能な交通サービスの提供

No	26 重点	27 重点	事務事業名	事業概要	コスト の方向	H26 決算見 込	H27 予算
01	1	1	行政バス運行経費(01-02-01-06-125-51)	行政サービス巡回車の運行管理経費	↑	96,941	106,603
02	2	2	地方バス路線維持経費(01-02-01-06-125-52)	不採算路線である市町村自主運行バス(廃止代替バス)7路線の運行継続を図る。	↑	80,988	83,304
03	3	3	地域交通対策事業(01-02-01-06-125-53)	公共交通空白地域において、住民の生活交通を確保するため地域住民が自主的に運営する事業に対し、運行に係る経費の一部を補助する。	→	2,177	2,150
構成事務事業 合計						180,106	192,057

構成事務事業の重点化

平成27年度施策評価シート

基本情報	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
	政策名等	42	市内外の交通インフラ整備により、人・モノ・情報の流れが活発なまちづくり	040100	企画振興部総合政策課	0595-22-9663
	施策	4205	伊賀線の活性化及び再生	評価責任者・役職名	企画振興部 部長 藤岡 淳次	
	再生の視点(何を、どうする)	<ul style="list-style-type: none"> 伊賀線については、今後、沿線のあらゆる主体が、伊賀線の存在価値や将来も本市のまちづくりに欠かせないインフラであるということを確認し、沿線住民のマイレール意識のもとに利用をさらに促進します。 通学定期利用者に頼る輸送構造を転換し定期外利用者を増やすため、鉄道事業者等とともに伊賀線の観光資源化に取り組みます。 鉄道の維持存続のため、関係者とともに伊賀線を支える最適なくみの構築に取り組みます。 				
施策の方向	将来も伊賀線が地域に愛され、より必要とされ、みんなで支えられるよう、沿線の各主体や鉄道事業者等とともに活性化及び再生に取り組みます。					

指標	成果指標名	指標の説明	現状値(平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	伊賀線年間輸送人員(万人)	伊賀線年間輸送人員	160	目標 156 実績 152	152	148

改善・取組方向	平成26年度		平成27年度	
	前年度の取組内容と残された課題	(平成25年度の取組内容と残された課題) 伊賀鉄道地域公共交通総合連携計画に位置付けられている利用促進に向けた取り組みや、安全輸送、維持存続に向けた支援などを実施しました。今後は利用者の更なる増加に向けた取り組みに加え、伊賀線を支える新たなスキームを構築する必要があります。	(平成26年度の取組内容と残された課題) ・伊賀鉄道地域公共交通総合連携計画に位置付けた施策に基づき、利用促進事業や安全輸送、維持存続のための支援等を実施しました。 ・現行の伊賀線を支えるスキームが平成28年度までとなっているため、平成29年度以降伊賀線を支える新たなスキームの構築に向けて近鉄、伊賀鉄道、県、市の協力体制のもと具体的な協議を行い、公有民営化方式で維持存続に取り組む事としました。 ・伊賀線の利用促進策及び周辺地域の活性化策として、四十九町地内に新駅を設置するための基本設計に向けた調査を開始しました。 ・新駅の整備については、平成26年度の基礎調査の結果を踏まえ、実施に向けた取り組みを進めます。	利用者の増加を図るため、伊賀線の観光資源化による定期外利用者への輸送構造の転換が図れる施策を進めるとともに、平成29年度以降の伊賀線を支える新たなスキームについて検討を行います。

平成27年度施策評価シート

基本情報	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
	政策名等	42	市内外の交通インフラ整備により、人・モノ・情報の流れが活発なまちづくり	040100	企画振興部総合政策課	0595-22-9663
	施策	4206	JR関西本線の近代化整備	評価責任者・役職名	企画振興部 部長 藤岡 淳次	
	再生の視点を(何を、どうする)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、整備促進団体等と連携しながら、JR関西本線の利用者増のための利用促進、利便性向上と電化実現に向けた施策に取り組みます。 線区と沿線地域の活性化を図るため、誘客につながる需要喚起策や鉄道事業者と車両メーカーが開発している次世代型車両(自己充電型バッテリー車両)の導入実現、駅設備のバリアフリー化など新たな視点も取り入れ、粘り強くJR等関係機関へ働きかけていきます。 				
施策の方向	JR関西本線の未整備区間である加茂亀山間の線区及び沿線地域の活性化のため、高速性、利便性の向上を図り幹線鉄道としての機能向上に向け、整備促進団体、鉄道事業者等と連携しながら取り組みます。					

指標	成果指標名	指標の説明	現状値 (平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	JR関西本線年間輸送人員(柘植駅～島ヶ原駅:万人)	伊賀市内5駅の年間乗車人数	63	目標 63 実績 -	64	65

改善・取組方向	平成26年度		平成27年度	
	前年度の取組内容と残された課題	(平成25年度の取組内容と残された課題) JR関西本線の整備促進に向け、整備促進団体等と連携し、利用促進や要望活動等に取り組みました。 引き続き、整備促進団体等と連携し、利用者の増加に向けた利用促進や利便性の向上、電化の実現に向けた取り組みが必要です。	(平成26年度の取組内容と残された課題) ・JR関西本線の整備促進に向け、整備促進団体等と連携し、利用促進や要望活動等に取り組みました。 ・JR島ヶ原駅の発券業務が困難になったことから、無人化を避けるため地域と協議の上、新たな委託団体を設立し、発券業務の継続ができるよう取り組みました。 ・電化、複線化の整備は、利用者の減少が続いており、事業者が実施しないことから実現には至っていません。 ・利用者増加に向けた施策を、更に推進する必要があります。	・引き続きJR関西本線の未整備区間である、加茂亀山間の線区及び沿線地域の活性化に向けた取り組みを進めます。 ・JR関西本線に望まれる都市圏への直通運行を果たせる可能性がある他の方法(ハイブリッド車両の導入)や、伊賀市として観光客誘致等にメリットがある伊賀上野～柘植間の電化の可能性等、新たな方向性を視野に入れた活性化の取り組みを検討します。 ・市内バス路線や伊賀鉄道との乗継の利便性確保に努めます。

平成27年度施策評価シート

基本情報	コード	名称	担当部署	コード	名称	連絡先
	政策名等	42	市内外の交通インフラ整備により、人・モノ・情報の流れが活発なまちづくり	040100	企画振興部総合政策課	0595-22-9663
	施策	4207	JR草津線及び近鉄大阪線の利便性向上、リニア中央新幹線建設促進	評価責任者・役職名	企画振興部 部長 藤岡 淳次	
再生の視点(何を、どうする)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、整備促進団体等と連携しながら、JR草津線の利用者増に向けた利用促進施策や、利便性向上と複線化実現に向けた施策に取り組めます。 近鉄大阪線については、利用しやすいダイヤ編成など利便性の向上や駅設備のバリアフリー化など鉄道事業者に対し働きかけます。 国土の新たな大動脈として期待されているリニア中央新幹線は、災害に強い国土づくりに優位性のある三重・畿央地域の重要性の発信と合わせて、当市の将来にその建設効果が十分発揮されるよう、全線の同時開業、三重・奈良ルートの実現、県内中間駅の確定について、建設促進団体や関係自治体等と連携して関係機関に働きかけます。 					
施策の方向	都市部と直結し、他線とともに市内鉄道ネットワークの中で重要な役割を持つJR草津線や近鉄大阪線の利便性の向上に向け、整備促進団体や関係自治体と連携しながら取り組めます。リニア中央新幹線は全線の同時開業、三重・奈良ルートの実現、県内中間駅の確定について、建設促進団体や関係自治体等と連携して関係機関に働きかけます。					

指標	成果指標名	指標の説明	現状値(平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	市外への公共交通網が充実していると思う割合(%)	まちづくりアンケート調査における「はい」「どちらかといえばはい」の回答率	14.6	目標 16.4 実績 15.5	18.2	20.0

改善・取組方向	平成26年度		平成27年度	
	前年度の取組内容と残された課題	(平成25年度の取組内容と残された課題) ・JR草津線の整備促進に向け、整備促進団体等と連携した利用促進や要望活動を行いました。 ・近鉄大阪線について、利便性の向上や駅施設の整備などの働きかけを鉄道事業者へ行いました。 ・リニア中央新幹線の建設促進について、促進団体と連携し、三重奈良ルートによる名古屋大阪間の同時開業に向けた働きかけを行いました。 ・JR佐那具駅の運營業務やJR伊賀上野駅に設置されているトイレの管理など、利用者の利便性を確保するための取り組みを行いました。 引き続き、これらの取り組みを進める必要があります。	(平成26年度の取組内容と残された課題) ・JR草津線の整備促進に向け、整備促進団体等と連携した利用促進や要望活動を行いました。 ・近鉄大阪線については、利便性の向上や駅施設の整備などを鉄道事業者へ働きかけを行いました。 ・リニア中央新幹線の建設促進について、促進団体と連携し三重奈良ルートによる名古屋大阪間の同時開業に向けた働きかけを行いました。	JR草津線の複線化促進、近鉄大阪線の利便性向上、リニア中央新幹線の建設促進については、引き続き関係団体や沿線自治体等と連携を図りながら関係機関への働きかけなどに取り組めます。
改善ポイントと具体的な取組				

